

◇ 国 語

国5-1～国5-15まで15ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

教育はつねに崖^{がけ}つ淵^{ぶち}に沿って歩くしかない。なぜなら、最も必要なことがあらかじめ不可能を予告されている、それが教育の本質と思われるからだ。必要にして不可能なのは徳育である。つまり生徒・学生の「気概」をいかにして養うかということだ。「やる気」がない相手にどんな知育（知識にかんする教育）や体育（身体にかんする教育）を授けても、おおよそ無駄に終わる。逆にいうと、「やる気」さえあれば、知育も体育も独学でこなすことができる。良い学術書なり良いシ^ナン書さえあれば、気概ある子供は自力で知識や体力を養成することができるのである。とくに小学校高学年以上の教育、つまり中等・高等の教育においてそうである。書物というものを読みこなせない幼い子供にたいする初等教育においては、両親や教師たちの授業が必要である。しかしそれ以上の段階の子供にとっては、もし気概が保たれているならば、独学でほぼ十分なのではないか。

私は学校不要論を唱えているのではない。独学における大いなる問題点は、独りで学んでいると、次第に気概が失せてくるというところにある。教師および学友たちとの会話、討論、議論が当人の気概の維持・強化にとって不可欠である。人間を言語的

(ア) 動物ととらえるにせよ社会的 (イ) 動物とみなすにせよ、はたまた政治的 (ウ) 動物と規定するにせよ、他者との交話なしに人間の生は成り立ち難いのであり、教育にあつてもその人間の条件がつかぬかれる。

気概を養うためにこそ学校が必要であるからには、学校教育の眼目は徳育だということになる。私が徳育というのは「固定された徳目」を教え込むことではない。そのようなものとしての修身教育が必要だとしても、それは家庭における幼児教育および初等教育の段階までであつて、それ以上の段階における修身教育はむしろ生徒・学生の気概を損ねるに違いない。

徳育とは、文字通りに、ヴァーチュ（徳）について教え学ぶことである。ヴァーチュとは「精神の力強さ」のことであり、徳の意味もまたそれである。ともに「気概」のことを意味すると解釈してさしつかえない。要するに、知育や体育における「やる気」を養成するのが徳育だということである。

学校における徳育が不可能を予告されているとはどういうことか。それは、気概なるものの精髓^aが、「生の葛藤^{かつとち}」に堪え、それを処理し、さらにはそれを昇華^bさせるという大いなる難事における力量にある、ということである。矛盾多き生、逆説に取り

困まれた生、そんな生を首尾良く乗り切るのはシナン^シの業であり、とくに学校の教師のような書物と首つ引き^シの生活を送っているものたちにこうした精神の術が備わるわけがない。

なかんづく、気概を養う際に「価値」の要素が不可欠だという点に注目しなければならぬ。何のために何をなすべきか、という価値観の陶冶なしに気概が養われるはずがない。そして、この世にある様々な価値観のうちでどれが優れていてどれが劣っているかを明示するのが徳育の最終目標である。何びとにとつてもこれは到達し難い目標であるが、学校の教師にとつてもまた然りである。教師があえて価値の優劣についての判別表を呈示すれば、それは押し付けの徳育であり、その結果は、生徒・学生の価値観を鑄型にはめたり、生徒・学生に価値観そのものをキヒ^キするようにさせる。いずれにせよそれは徳育の失敗である。気概なき青少年を大量発生させるだけのことだ。

結局、教師は徳育について断念し、知育・体育に専念するしかない。これこそが教育の抱える解決不能の矛盾である。唯一（といてよいほど）大事な徳育については不可能を約束されており、なしうるのは（独学でも可能だという意味で）些事にすぎない知育・体育なのである。教育というものをひとまずこのようにとらえれば、それでもあえて教師という職業を選びとるものは変人奇人の部類に属するということになってしまう。

だが、消極的には、徳育は可能なのである。それは、教師が「自分は唯一大事なことを教えたいのだが、それを教える力量は自分にはない」と考えていることを生徒・学生に伝えることである。この教師における徳育への希望と絶望という状態をいかにして青少年たちに伝えるか。それは知育・体育の「教え方」において以外にはありえない。たとえば、ある歴史上の人物なり歴史的な事件なりについて教えるときの、語り方、論の組み立て方、イメージをカンキ^カする仕方などにおいて、教師のうちには価値観をめぐるいかなる心理の葛藤が渦巻いているかが青少年たちによって察知され、そのような学校における経験の蓄積を通じて、価値の優劣判定にかんする「接近法」を青少年たちが学んでいくということである。

知育・体育を経由して価値への接近法を伝えるという消極的な徳育は、いうまでもないことだが、教師の人格を賭した営みとなるほかない。しかしそれは、人格的完成のための処方箋を示す、というような馬鹿げたシヨギョウ^シのむしろ対極にあるもので

ある。人格の完成という希望をまだ捨てたわけではないが、おのれの人格が完成からはるかに隔たっていることについて、その隔たりをますます大きくすらしているかもしれないことについて、失望がこみ上げてくる、それが教師のなしうる人格的表現の最大限であろう。それから少年たちが価値への接近法を、少なくともそれを模索する切掛きっかけを、しっかりと掴つかむかどうかは確言できない。しかしその可能性はしっかりと存在する、と考えるくらいにはヒューマニストでなければ、そもそも教育についても致し方ないのではないか。

〔西部邁 「徳育をめぐる希望と絶望」による。一部省略あり〕

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A シ|ナン

- ① 間違いをシ|テキする
- ② オンシ|の期待にこたえる
- ③ シ|ジョウ命令が下る
- ④ 公平ムシ|の精神
- ⑤ シ|リヨを欠く発言

1

B シ|ナン

- ① 論文のヨウシ|を述べる
- ② 図書館シ|シヨになる
- ③ 政府のシ|シンを示す
- ④ 解散はヒツシ|の状況だ
- ⑤ 一点をギョウシ|する

2

C キ|ヒ

- ① 優勝をキ|ガンする
- ② 祖母のサンカイキ|を迎える
- ③ ジョウキ|を逸する
- ④ 将来の生活にキキ|カンを持つ
- ⑤ 実力をハツキ|する

3

D カ|ンキ

- ① 小切手をカ|ンキンする
- ② 悪にカ|ンゼンと立ち向かう
- ③ 証人カ|ンモンをおこなう
- ④ 合計の数をカ|ンジヨウする
- ⑤ 大政をホウカ|ンする

4

E ショ|ギョウ

- ① ショ|シを貫徹する
- ② ユイシ|ヨある家柄
- ③ 寛大なシ|ヨブン
- ④ セキシ|ヨを越える
- ⑤ ショ|ミンの感覚

5

問二 空欄 | | に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④の中から

一つ選べ。

- ① 媒体を操る | 役割を担う | 権力を駆使する
- ② 権力を駆使する | 媒体を操る | 役割を担う
- ③ 役割を担う | 媒体を操る | 権力を駆使する
- ④ 媒体を操る | 権力を駆使する | 役割を担う

問三 空欄 に入る最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 二者択一
- ② 論理矛盾
- ③ 四面楚歌
- ④ 二律背反

問四 傍線番号 (a)・(b)・(c)・(d) の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 精髓

- ①スピリット
- ②バイタリテイ
- ③エッセンス
- ④ミネラル

8

(b) 昇華させる

- ①十分よく理解することにより、自分のものにする
- ②ある状態から、さらに高度な状態へ飛躍させる
- ③火を消すように心の葛藤を抑え、平常心を得る
- ④考え抜いたあげくに、あきらめの境地に身を置く

9

(c) 首っ引き

- ①熱中すること
- ②手離さないこと
- ③収集すること
- ④大切にすること

10

(d) なかんづく

- ①とりわけ
- ②しかしながら
- ③加えて
- ④さりとて

11

問五 傍線部（一）「最も必要なことがあらかじめ不可能を予告されている」のはなぜか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

12

- ①最も必要なこととは「精神力」を教え込むことであるが、これは初等教育を過ぎると逆効果となるものだから
- ②最も必要なこととは「やる気」を養成することであるが、教師全員に「やる気」を期待することは不可能だから
- ③最も必要なこととは「徳育」を授けることであるが、そのために価値の優劣の判定を呈示することが不可能だから
- ④最も必要なこととは「気概」を養わせることであるが、徳育自体を直接的におこなうことが理論的に不可能だから

問六 傍線部（二）「変人奇人の部類に属する」のはなぜか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

13

- ①ちよつとしたことで、気概なき青少年を生み出す危険性がある割には、少しも報われない仕事を選ぶことになるから
- ②個人の努力ではどうにもならないことを求められていることが、あらかじめ分かっている仕事を選ぶことになるから
- ③書物と首つ引きの生活を送ることになり、逆説に取り囲まれた生を乗り切ることが困難な仕事を選ぶことになるから
- ④学校で知育・体育についてのみ教えることは、塾などでも学べるという点で、独自性のない仕事を選ぶことになるから

問七 傍線部(三)「人格的完成のための処方箋を示す」とは具体的に何をすることか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ①どちらが優れていて、どちらが劣っているといった、価値の優劣についての判別表を呈示すること
- ②教師に価値観をめぐる心理の葛藤が渦巻いていることを、歴史の教育などを通じて伝えること
- ③唯一大事なことについて教えたいのだが、それを教える力量はないと考えていることを伝えること
- ④矛盾多き生、逆説に取り囲まれた生を首尾良く乗り切れることは難しい、ということ伝えること

14

問八 この文章で筆者が述べている内容と異なるものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ①徳育とは、生徒・学生の気概を養うことである。「やる気」がなければ、知育・体育を授けても、無駄に終わってしまう。逆に気概が保たれているならば、独学で学ぶことができる。とさえ言える。
- ②学校が不要ではない理由は、一人で学んでいると気概が失われることにつながるからである。人間にとって他人との交話をおこなうことは、生きていく上で必須のものだと言える。
- ③気概を養うにあたっては、「価値観」をみがくことが不可欠であるが、教師があらかじめ価値の優劣の判別表を示すことは、価値の優劣判定にかんする「接近法」を学んでいく一助となりうる。
- ④徳育は、教師の人格を賭けた営みである。それは、教師自身が希望を持ちつつも、人格を完成することが絶望的なまでに困難である、といった失望感をいかに表現するかにかかっている。

15

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

そもそも明治四十五年（一九一三）、初めて公刊された時から、樋口一葉（一八七二—一八九六）の日記は、傑作との呼び声が高く、おそらく彼女の、最もすぐれた作品であろうと、喝采のうちに迎えられた。

一葉自身や、日記に登場する人々の名譽を傷つけるおそれがあるから、部分的削除が望ましいという希望が退けられ、日記がもとのままの形で出版されることになったのは、おもに馬場孤蝶の主張によるものであった。その時孤蝶は、次のように書いている。

私どもは「日記」を一葉君の書き物のうち最も重んずべきものの一と考える。私どもは、優れたる婦人樋口一葉君の人物を最も明に説明すると同時に、一葉君の作物のうちで最も勝れたものの一である「日記」を唯其儘に闇に葬って置くのは如何にも残念で堪まら無い。（小田切進『近代日本の日記』）

一葉の日記は、彼女の小説を読んだり、それに基づく映画を見たりして、樋口一葉に興味を抱いた人々によって、以後ずっと読み続けられて来た。けれども一葉は、日記の中で、常に本当のことを語っていないのではないか、事件によっては、全くの作りごとであったり、自分が悪く思われるおそれありというので、削ったりしたものがあるのではないか、という疑いが、この日記にはつきまとってきた。

削除したところはない、と馬場孤蝶は言うけれど、明らかに削られた箇所があるはずだ、と主張する学者も ア を絶たない。かりに孤蝶と他の編者たちが、もとの原稿になんら手を加えなかったとしても、人に読ませるためには書かなかつた、という一葉の主張とは イ に、日記の諸所に、はつきりと見てとれる文学的作為のあとを、不問に付すのはむずかしい。

一葉も、少なくとも心の奥底では、古の偉大な女流日記作者のひそみにならつて、いつかは自分の日記を上梓したい、と思っていたのに違いない。妹の邦子は、自分が死んだら日記は焼き捨てるようにと、死の床にある姉から頼まれた、と述べている。そしてこの話のシンギ^Aを確かめるすべは、今やどこにもない。日記を発表して、姉の評判に傷がついてはいけないと思つた

邦子が、日記を焼くようにという姉の遺言を「創作」したのではないか、と **ウ** する学者もある。幸いに邦子は（死ぬ前に人から日記を焼却してくれと頼まれたたいていの人間がするように）姉の頼みを無視した。

しかしこの日記を読んでみて、私たちは、一体なぜこれを公刊しては、一葉の評判に傷がつくと人が思ったのだろうか、と

甲 を得ない。後世に生まれたものの強みで言うなら、この日記は、一葉の評判を落とすどころか、むしろ彼女の神話を創り上げるのに貢献するところが多かったのだ。つまり、一生貧乏と戦い、ただ一回きりの恋愛はついに実ることなく、日本の近代文学の傑作として残る小説いくつかを書いて、ただの二十五歳で世を去った天才女性、という神話である。

もし日記が本当に焼き捨てられていたなら、私たちの手元に残ったのは、ただ彼女の書いたもの——少しばかりの短編とあまり感心しない数多くの和歌——それに彼女をじかに知っていた人々によるゴシップと思ひ出話だけ、ということになったであろう。そして今日の偶像化された樋口一葉も、多分存在しなかったはずである。日記を読んでみて、これは削除したほうがよかつたと思われるような記述は、一日、いや、一節たりとも見当たらない。

一葉の日記は、日記というジャンルの性質上、例えば『たけくらべ』のように、文学的に完璧だとは言えない。しかしこの女性、まことに**ビボン**な女性で、その五百年前に書かれた『竹むぎが記』の作者以来、おそらく最もすぐれた女性のを、終始夢中にさせずにはおかないのである。

乙 作家でもあった。だからこの日記は、その人の短い生涯を描いた、まことにユニークな記録として、それを読むものを、終始夢中にさせずにはおかないのである。

一葉日記の研究に **エ** してきた学者の中には、日記によって彼女の本当の性格を知り、なにやら迷いがさめたような気持ちになったものもあるらしい。といってそれは、彼女が、（母親の反対を押し切って）小説家半井桃水のもとによく出入りしたことにショックを受けたからというのでも、また占師久佐賀との奇妙な関係を知ったからということでもさえない。

彼らがショックを受けたのは、一葉の、あまり **オ** とは言えない性格を、日記の中に感じ取ったからである。彼女は常に真実を述べているように思えず、時には記述された事実が疑わしいこともあった。またどんなことがあっても作家として世に出てやろう、と決意していた女性の、レイコクとも言える性情の片鱗を見て取った学者も少なくない。一葉日記の研究では

最も重要な仕事をした和田芳恵は、彼女の日記は自伝小説として読むべきだ、と信じていた。日記の中でおそらく一番劇的な事件といえる、半井桃水との関係を絶とう、という一葉の決意について、和田はこう書いている。

客観的にみると、桃水に頼んで小説を売りこみ、それから得た金で生活しようとしていたことも駄目になったので、桃水の世話を断って、花圃（注・三宅花圃）歌人、小説家）に頼ることにしただけである。そして、このスキヤンダルは、「都の花」と結びつくために、一葉が利用した結果になった。だから、もし、桃水の力で新進作家として世の中に出られるか、または、生活費を桃水から続けて貰えるとしたら、萩の舎で騒がれたとしても、一葉は、決して桃水との形式的な絶交はしなかっただろう。桃水は、逆境にいて、一葉に裏切られたものと考えられる。（和田芳恵『樋口一葉伝』）

一葉の動機についての和田のきびしい評価を、受け入れるかどうかは別としても、長年一葉研究にセイコンを注ぎ込んだ研究家が、このような結論に到達したということ自体が、注目に値する。普通伝記作家というものは、相手が一葉よりもはるかに魅力に欠ける人物であっても、自分が取り扱う主題に惚れ込んでしまうものである。ところが、和田よりはさらに一葉に同情的な学者ですら、この日記のもつ真実性に、やはり疑いを表明している。例えば、西尾能仁^{にしひ}である。彼は、一葉が桃水に初めて会った時のことが問題だという。つまりこの最初の出会いの六日後に、一葉を桃水に引き合わせた張本人の野々宮きく子が、一葉を訪れるところがある。西尾は、このきく子の訪問に関する日記の記述には、桃水のことの全く出て来ない事実^{じじつ}に留意している。

ふれ（触）でも記さなかったとすれば、それはなぜか。少なくとも一葉としては、あれだけの懇篤な処遇をうけたのだから、紹介者の野々宮に挨拶あつて然るべきであるし、もし会見直後礼にいったとしても、重ねてここで少しくらいは話題に出てもよさそうなものである。そこでわれわれは考えるのである。十五日（桃水に初めて会ったとする日）のあの記事は一葉の描き出した世界であつて事実ではないと。（西尾能仁『全釈一葉日記』）

こうしたコメントを読むと、この日記の非常なシヨウサイさにもかかわらず、彼女の日記を一番よく知っているはずの学者にとつてすら、一葉という人物は、最後までなぞとして残ったのである。

〔下ナルド・キーン『続百代の過客 日記にみる日本人（下）』「一葉日記」による〕

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を使うものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A シンギ

- ①ギギを追及する
- ②ベンギを図る
- ③キヨギの報告をする
- ④ギオン効果を使う
- ⑤イギをただす

16

B ヒボン

- ①ヒゲキ的な結末
- ②ヒキョウを訪ねる
- ③ヒテイ的な意見
- ④ヒゴウの最期
- ⑤演技をヒロウする

17

C レイコク

- ①本物にコクジしている
- ②コクモツを輸入する
- ③コクイの発揚
- ④コクゲンが迫る
- ⑤経緯をコクメイに記す

18

D セイコン

- ①セイキがみなぎる
- ②セイイキなき改革
- ③書類でシンセイする
- ④文章をシユウセイする
- ⑤セイコウ雨読の日々

19

E ショウサイ

- ①ショウコを集める
- ②ショウケイ文字
- ③経過をショウジュツする
- ④優秀者をヒョウショウする
- ⑤内政にカンショウする

20

問二 空欄 ア・イ・ウ・エ・オ に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中

からそれぞれ一つずつ選ぶ。

ア	① 数	② 後	③ 類	④ 例	21
イ	① 裏腹	② 格段	③ 明快	④ 特別	22
ウ	① 強弁	② 妄想	③ 示唆	④ 誤解	23
エ	① 没頭	② 忙殺	③ 集中	④ 傾聴	24
オ	① 冷静	② 正直	③ 温和	④ 明朗	25

問三 傍線部 (a)・(b)・(c) の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

(a) 不問に付す

- ① 不明な部分を質問する
- ② 取り立てて問題にしない
- ③ わからないところに印を付ける
- ④ 問題を解決する

26

(b) ひそみにならつて

- ① 他人のまねをする
- ② 他人に教えてもらう
- ③ 丸写しする
- ④ こっそり盗み見る

27

(c) 偶像化

- ① 絵画に描かれた姿
- ② 崇拜の対象
- ③ 想像した中身
- ④ 銅像にする

28

問四 空欄

甲・乙

に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

甲

- ① 肯定せざる
- ② 想像せざる
- ③ いぶからざる
- ④ 信用せざる

29

乙

- ① 伝記
- ② 散文
- ③ 推理
- ④ 恋愛

30

問五 樋口一葉の作品ではないものを、次の①～④の中から一つ選べ

- ① 大つごもり
- ② 十三夜
- ③ にごりえ
- ④ それから

31

問六 傍線部（一）「彼女の日記は自伝小説として読むべきだ」とあるが、和田芳恵がそう信じていたのはなぜか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 一葉がすぐれた作家であり、自分のことを客観的に捉え、自らの欠点も含めて冷静に記述することができたから
- ② 一葉の人生が波乱万丈で、物語性に富み、誰が読んでも興味深く、面白い内容だったから
- ③ 一葉の周囲には、魅力的な人物がたくさんいて、その人たちが一葉の人生を華やかに彩ってくれたから
- ④ 一葉がしたたかな性格で、事実を曲げてでも自分の都合のよいように脚色して書くことができたから

32

問七 本文の内容と合致しないものはどれか。次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 樋口一葉の日記には事実と反することが記されているところがある。
- ② 樋口一葉の日記には実在しない人物が登場する。
- ③ 樋口一葉の日記には彼女の本当の性格が写しだされている。
- ④ 樋口一葉の日記には読者を夢中にさせる魅力がある。

33